

別 表 環 境 に や さ し い 農 業 実 施 基 準（令和7年度）				
種 目	目 的	内容及び補助対象経費	補助対象基準	補 助 率
1. 生態系（エコ）農業推進事業	(1)【交信攪乱剤利用促進】 ・交信攪乱剤を利用して害虫の個体数を減少させることにより、使用農薬の低減を図る。	○野菜や果樹等の害虫防除に交信攪乱剤を利用する事業 ・交信攪乱剤購入費		・2分の1、ただし1戸あたり20,000円を限度とする。
	(2)【特性植物利用促進】 ・植物が持つ特性を利用することにより防虫対策や土壌回復、雑草対策を行い、農業・化学肥料の使用低減を図る。	①対抗植物を利用する事業 ・対抗植物購入費 ②緑肥兼景觀植物を利用する事業 ・緑肥兼景觀植物購入費 ③雑草抑制植物を利用する事業 ・雑草抑制植物購入費 ④天敵温存植物を利用する事業 ・天敵温存植物購入費 ⑤深根性植物を利用する事業 ・深根性植物購入費	・栽培基準：補助対象植物の栽培体系に照らし適正であること。 ※補助対象植物は別紙のとおりとする。	・2分の1、ただし1戸あたり種子の場合は限度額を15,000円、苗の場合は限度額を30,000円とする。
	(3)【防虫ネット利用促進】 ・ハウスに防虫ネットを設置することにより、ウイルス病を媒介する微小害虫の侵入を防ぎ使用農薬の低減、ウイルス病等の予防防疫を図る。	○施設栽培の病中防除に防虫ネットを利用する事業 ・防虫ネット購入費(0.6mm以下) ※サンサンネットクロスレッド(0.8mm以下)		(対象経費が100,000円未満の場合) ・2分の1、ただし1戸あたり25,000円を限度とする。 (対象経費が100,000円以上の場合) ・4分の1、ただし1戸あたり50,000円を限度とする。
	(4)【環境に配慮した土壌消毒の導入促進】 ・糖含有資材(糖含有珪藻土、糖蜜吸着資材)を利用して施設栽培における土壌病原菌を低減させ、クロルピクリン剤等の農薬使用の低減を図る。 ・低濃度エタノールを利用して施設栽培における土壌病原菌を低減させ、クロルピクリン剤等の農薬使用の低減を図る。 ・難透過性フィルムを利用し、消毒剤の揮散を防ぐことで消毒使用の低減を図る。	○環境に配慮した土壌消毒を実施する事業 ・糖含有資材(糖含有珪藻土、糖蜜吸着資材) ・低濃度エタノール ・難透過性フィルム	(糖含有資材利用の場合) ・新規導入の場合、普及指導員等より事前指導を受ける。 (低濃度エタノール利用の場合) ・新規導入の場合、普及指導員等より事前指導を受ける。 (難透過性フィルム利用の場合) ・内容審査のため、カタログ等を提出する。 ・新規導入の場合、普及指導員(本庄農林振興センター)、営農指導員(埼玉ひびきの農協)等より事前指導を受ける。	(糖含有資材利用の場合) ・2分の1、ただし1戸あたり30,000円を限度とする。 (低濃度エタノール利用の場合) ・2分の1、ただし1戸あたり30,000円を限度とする。 (難透過性フィルム利用の場合) ・2分の1、ただし1戸あたり20,000円を限度とする。
	(5)【病害虫の天敵の導入促進】 天敵資材を利用して施設栽培における農薬使用回数の低減を図る。	○農薬使用回数の低減が期待できる天敵資材を利用する事業 ・天敵資材購入費		・2分の1、ただし1戸あたり30,000円を限度とする。
	(6)【飛翔害虫誘引捕虫資材利用促進】 飛翔害虫誘引捕虫資材を利用して飛翔害虫の捕獲、発生予防をすることにより、農薬使用回数の低減を図る。	○農薬使用回数の低減が期待できる飛翔害虫誘引捕虫資材を利用する事業 ・飛翔害虫誘引捕虫資材購入費 ※コナジラミ等の害虫を誘引するものであり、ハエ用等の資材は対象外。		・全額、ただし1戸あたり10,000円を限度とする。ただし、LED光を用いた機器の場合は1台あたり10,000円を限度とし、1戸あたり2台まで補助対象とする。
2. 生分解性マルチフィルム利用推進事業	【生分解性マルチ利用促進】 ・土壌微生物により分解・消滅するマルチフィルムの利用を促進することにより廃プラスチック類の排出を削減するとともに処理費等の低減を図る。	○野菜等の栽培に生分解性マルチフィルムを利用する事業 ・生分解性マルチ購入費。ただしプラスチック製の場合は生分解性プラマークを取得していること。		(対象経費が100,000円未満の場合) ・2分の1、ただし1戸あたり20,000円を限度とする。 (対象経費が100,000円以上の場合) ・5分の1、ただし1戸あたり60,000円を限度とする。
3. 堆肥等有機資材利用推進事業	【堆肥等利用促進】 ・健全な土作りを行い、化学肥料の低減を図る。	○堆肥等有機資材を利用する事業 ・埼玉ひびきの農業協同組合のマニユアスプレッダー(堆肥散布機)利用料に対して補助		・1戸あたり10,000円を限度として、施設用：半日1,000円露地用：半日2,500円を補助する。 (参考)JAMマニユアスプレッダー利用料 施設用：半日1,800円、1日3,600円 露地用：半日5,000円、1日10,000円
4. 実証ほ、展示ほ設置推進事業	【実証ほ、展示ほ設置促進】 ・新たな事業実施基準や補助対象植物の導入に適しているかの有無を判断するため、実証ほ・展示ほを設置する。	○実証ほ、展示ほを実施する事業 ・実証ほ設置費 ・展示ほ設置費	・補助条件：事業計画が明確であること。 ・事業計画については必要に応じてエコ農業研究会で協議する。	・全額、ただし1件あたり50,000円を限度とする。(年3件とする。)
5. 有機JAS認定取得推進事業	【有機JAS認定取得促進】 ・有機農業による生産を推進するため、有機JAS認定手数料(新規・継続)の一部を補助する。	○有機JAS認定手数料を補助する事業 ・新規認定手数料 ・継続認定手数料 ※基本料金、検査員人件費、検査員旅費等	・補助条件：認定証の写しを提出すること。	(新規認定の場合) ・全額、ただし1戸あたり50,000円を限度とする。 (継続認定の場合) ・全額、ただし1戸あたり30,000円を限度とする。

※補助対象者：市内在住の販売農家(法人も含む)又は販売農家集団
対象地域：本庄市内 補助条件：事業計画が明確であること。
※同じ目的で異なる種類の補助対象資材を使用する場合は、資材ごとに申請が可能。
※周辺に悪影響を与えないように実施すること。
※交付要件等、詳細については、問合せください。

問い合わせ先

・本庄市役所農政課農業振興係 電話：25-1177(直通) FAX：25-1248 メール：
nousei@city.honjo.lg.jp
・本庄市役所支所環境産業課産業係 電話72-1331(代表) 内線234

補助対象植物

①対抗植物を利用する事業…一定期間栽培することで土壌内の有害線虫密度を抑制する。

種 別	植物名	分類	効果・導入利用例等	播種/定植時期	単価(目安)
対 抗 植 物	クロタラリア	マメ科	ハウス（キュウリなど）、露地野菜に寄生する多種類の有害線虫対策。景観形成にもなる。	6～7月	1,000円/Kg
	マリーゴールド	キク科	ネグサレ線虫の密度を抑制。ナス畑周囲の防虫対策。	4～6月	15,000円/Kg
	エン麦	イネ科	キタネグサレ線虫を強力に密度抑制。春、晩夏、秋まきの3季まきが可能。	3～5月 8下～11上	500円/Kg
	ギニアグラス	イネ科	ハウスの線虫対策・過剰に集積した肥料成分等の吸収に最適。	6上～8上	4,200円/Kg

②緑肥兼景観植物を利用する事業…栽培後に土壌に混ざって、その後の作付け作物の肥料になり、花が咲き景観美化にもなる。

緑肥兼景観植物	クリムソクローバ	マメ科	連作障害を防ぐ土壌改良及び砂の飛散防止にも役立つ。遊休農地の地力対策。深紅の花が咲く。	9～11月	900円/Kg
	レンゲ	マメ科	水田裏作の地力増進と窒素の減肥に貢献。春にピンク色の花が咲く。	9～11月	1,200円/Kg
	ヒマワリ（緑肥用）	キク科	菌根菌の密度を高め、後作のリン酸吸収を促進。開花時の草丈が150cm前後で耐倒伏性が強い。	5～8月	3,000円/Kg
	からし菜	アブラナ科	転作田の地力増進。遊休農地の雑草抑制対策。黄金色の花が咲く。	10下～11下	900円/Kg
	菜の花	アブラナ科	春を彩る代表的な景観緑肥作物。水田裏作に導入後の雑草抑制効果が高い。	9～11月	3,000円/Kg
	コスモス	キク科	自然の生態回復・保護や遊休農地等の対策。	4～8月	7,000円/Kg
	ハゼリソウ	ハゼリソウ科	後作のネギ栽培で生育が良くなり、白絹病や黒腐菌核病の発生を抑制する。紫色の花が咲く。	3上～4中 10下～11中	2,000円/Kg
	ベニバナ	キク科	土壌pHやアルミニウムを中和する効果があり、土壌改良に役立つ。	3中～下	9,500円/2

③雑草抑制植物を利用する事業…土壌表面の被覆やアレロパシー（植物が離れている他種の植物に影響を与える現象）物質の放出により雑草育成を抑制する。

又はグラウンドカバープランツ（地被植物）を畦畔等に覆い雑草を抑制し、景観の改善にもなる。

雑草抑制植物	ヘアリーベッチ	マメ科	春～初夏に繁茂し、地上被覆性が高く、雑草を強力に抑制。4～5月に紫色に開花し、開花後は自然に枯れ敷きワラ状になる。果樹園の草生栽培、耕作放棄地など耕土保全に最適。	3～5月 9～11月	600円/Kg
	ヒメイワダレソウ	クマツヅク科	繁殖力が非常に強く、法面保護効果も高い。日向を好む。 (畦畔・法面)	5～6月	苗150円/株
	センチピードグラス	イネ科	根から発生分泌するアレロパシー（他感作用）で雑草を抑制する。耐暑、対干性が抜群。 (畦畔)	5～7月	12,500円/Kg
	ライ麦	イネ科	冬～春期は緑の絨毯で雑草を抑制。刈取りはハマーナイフモアで行い敷草化する。 (草生栽培)	10～11月	500円/Kg
	ナギナタガヤ	イネ科	自然倒伏による長期の自動マルチ効果により刈取り不要で長期間雑草を抑制する。 (草生栽培)	9上～10下	4,200円/Kg

④天敵温存植物を利用する事業…農作物の近くに植物を栽培し、そこに害虫の天敵になる昆虫類などを定着・増殖させ天敵が害虫を防除する。

(天敵温存植物はバンカープランツとも言われている。)

天敵温存植物	シロクローバ	マメ科	コナガの天敵であるクモやゴミムシが定着。 (キャベツ畑)	定植3週間前	1,500～ 2,800円/Kg
	ソルガム	イネ科	ナス畑の周りに植えると、ヒメハメシ、クサガキなどの天敵が定着し、ミミキアザミヤガ、アブラムシ等の害虫を捕食する。防風・障壁効果もある。	5～8月	1,000円/Kg

⑤深根性植物を利用する事業…硬盤破碎により、土壌の排水性、通気性を高める。栽培後に土壌に混ざること、その後の作付け作物の肥料にもなる。

深根性植物	セスパニア	マメ科	硬盤破碎で排水性の向上の他、耐風性に強く、茎にも空中チッソを固定茎粒が付き、緑肥作物としても有効である。(2ヶ月ほどですき込む)	6～7月	1,700～ 2,000円/Kg
-------	-------	-----	--	------	---------------------